

琵琶湖博物館フィールドレポーター2023年度第1回調査
スクミリンゴガイおよびタニシ類分布調査

スクミリンゴガイの卵塊と貝



スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）をご存知でしょうか？

正式名称はスクミリンゴガイ（*Pomacea canaliculata*）と言い、FRだより32号より転載南アメリカ原産の淡水巻貝で1981年に食用目的で初めて日本に導入されたと言われています。通称ジャンボタニシと言われるように、その外観や生育環境は、日本産のタニシとそっくりですが、分類学上はかなり遠縁の巻貝です。詳細は環境省の資料を添付しましたので参照して下さい。滋賀県では指定外来種に指定されています。滋賀県のホームページには、2022年9月16日にスクミリンゴガイとその卵塊が、県北部では初めて長浜市の余呉湖で発見されたと公表されています。そして県内に分布が広がっている状況が報告されています。琵琶湖博物館では、2022年3月14日から水族展示室の「連れてこられた生き物たち」のコーナーで、スクミリンゴガイのレプリカ展示を行なっています。

フィールドレポーターでは、2012年度第1回調査「スクミリンゴガイおよびタニシ類の分布調査」を実施しました。そして今回、2回目の調査を企画しました。調査-1は「卵塊調査、スクミリンゴガイの卵塊を見つけよう」です。調査-2は「できれば調査、スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）の貝とタニシ類の調査」です。調査票に従って調査に参加をお願いします。見つからなかった場所の情報も極めて重要ですので、調査票に記入して送ってください。できれば卵塊や貝類の写真を送ってください。専門家に確認を依頼します。でも、採取したタニシ類は郵送しないでください。

調査期間は2023年4月末から7月末です。

【特に注意する事項】

1. スクミリンゴガイは以下の理由で触らないでください。
 - ①滋賀県の条例（注）で放流、および無許可の飼育が禁止されています。
（注）ふるさと滋賀の野生動植物との共生に関する条例
 - ②危険な寄生虫（広東住血線虫）がいる可能性があるため。
 - ③卵塊は表面に毒を持つため。
2. 調査場所が田んぼや川、湖畔近辺になると思います。転落、ケガなど事故に細心の注意を払って参加して頂きますようお願い致します。観察は離れた場所から写真を撮って行るか、柄の付いた網などで採取するなど、安全な方法をお願いします。

参考資料

1. 環境省資料；<https://www.env.go.jp/nature/intro/4document/poster.html>
2. 滋賀県のホームページの資料
<https://www.pref.shiga.lg.jp/kensei/koho/e-shinbun/oshirase/327316.html>
3. 貝類の見分け方；琵琶湖博物館 うおの会
4. フィールドレポーター（FR）だより2012年度第1号（通巻32号）